

チャーガ情報（ウクライナ） No2

2001年4月作成

Yenenko Y.A., Grishina V.S., Kolchin Y.N., Grishin N.V.

『腫瘍学における薬用植物療法（薬草と癌）』 医療手引書
Lugansk (1994)。 出版依頼：ルガンスク州抗癌協会。監修：ルガンスク医科大学腫瘍治療泌尿器科講座長、V.R.Pepenin教授；同大学第二内科講座長、A.V.Khramov教授

Ененко Ю.А. и др. (1994). Фитотерапия в онкологии (лекарственные растения и рак): Лечебник — Луганск: Изд. Лугань.

pp.22—23

白樺のキノコ、チャーガ

医薬品原料 治療用として、白樺のキノコ様のコブが、斧で削ぎ取り採取されてる。主に、このキノコは初春あるいは秋に集められている。

薬学的特徴と医学への応用 チャーガには、身体の抵抗力を高め、疾病の影響による免疫低下を回復させながら、中枢神経系、身体の神経ホルモン系、また新陳代謝系に刺激を与える成分を有している。チャーガから製造された薬品は、放射性白血病、末期腫瘍患者の健康回復のための対処用薬として、放射線治療時の放射性白血球減少症、潰瘍、胃炎の予防薬として利用されている。チャーガは、昔から民間療法において抗癌腫瘍薬として有名である。このキノコから作られた薬品は、癌患者に対し、多くの場合、痛みが軽減あるいは無くなる、吐き気、嘔吐、胸やけといった症状が解消するといったよい効果を示すことが、明らかにされている。医学においてチャーガから作られた薬品は、胃炎、潰瘍、胃や肺その他の癌、特に患者が放射線治療や化学療法によって効果を得られない場合などに、対処用薬として用いられている。

薬品の製法、用法、用量 白樺寄生のキノコからのエキス抽出法。キノコを水で洗浄し、湯冷ましの水の中にキノコ全体がつかないように4から5時間沈める。水につけたキノコをおろし器ですりおろし、キノコをつけてあった湯冷ましを50℃以下に温め、キノコ1に対して、5の割合になるように注ぐ。48時間後、エキスを沈殿物から注ぎ分けた後、抽出したエキスを最初の分量に薄める。エキスの保存期間は4日間。食前30分前に、少量を一日につきコップ3杯ずつ（訳注：通常

コップ1杯とは200ml)服用する(大人の用量)。峽骨盤の腫瘍の場合、追加として、夜に浣腸器で(50から100ml)注入する。大量の液体に対して拒否を示す患者に対しては、二倍の濃度のエキスを用いると言われている(キノコ2に対して湯冷まし5の割合)。

薬品Bofunginumは、半濃厚状のチャーガ抽出エキスである。茶さじ2杯に対して150mlの水で薄め、一日3回食前にスープ用のスプーン1杯ずつ服用する。チャーガ抽出薬品を使った治療は、3から5ヵ月を一期の治療コースとして、コース間を7から10日間の休止期間をおきながら行われる。食餌療法を守り、一日の食物摂取の中で、香辛料、薫製、ソーセージ類、缶詰食品を禁止し、乳製品、植物性食品の摂取に心がける。

ブドウ糖やペニシリン-3(キノコ対抗体)の血管注入は、行ってはならない。

1. 山蠟(訳注:山中の岩の割れ目から発見される樹脂用物質、種々の有機物を含み古来の民間薬)0.2gをコップ1から3杯の水で服用する。

Bofunginumを茶さじ三分の一杯、
ハチミツ茶さじ一杯、
朝、空腹時に3日間。

2. 浣腸

水0.5ℓ
山蠟5g

Bofunginumをスープ用スプーン二杯、
ヤマブキソウ(訳注:ケシ科の宿根草、茎は黄褐色の汁(有毒)を含みある種の皮膚病の薬とされる)の搾り汁茶さじ一杯。

これらすべてをまぜあわせ、半分に分ける。夜の排便の後、まず200mlを、残りは一定の時間をおいて浣腸し、保持するように努める。

チャーガ情報（ウクライナ）補足

2001年4月作成

（補1-1）チャーガの採取は、年間をとおして行うことができるが、白樺の木に葉がなくチャーガを見つけやすい、晩秋、冬、初春が適している。その他、この時期のキノコには、生物的に活性物質の成分は最大に達している。

（補1-2）錠剤状のチャーガ製剤も製造されている。食前30分前に一錠ずつ一日4回服用する。

（補2-1）有効成分が少ないので、枯れた木や幹の下部からチャーガを採取すべきではない。

（補2-2）薬学的特徴。チャーガには身体の保護作用機能を高め、実験によると、大脳皮質の生体電気値を高めるなど、脳細胞組織の新陳代謝を活性化する効果がある。チャーガの内服や外用によって、消炎作用が得られる。

チャーガ情報 (ウクライナ) No1

2001年4月作成

キノコ類 Fungi

タバコウロタケ Hymenochaetaceae、サルノコシカケ Polyparaceae
と同属

カバノアナタケ *Inonotus obliquus* (Persoon) Pilat Fsterilis (Van.)
Nikol.

白樺寄生のキノコ (チャーガ) FUNGUS BETULINUS

白樺の幹 (特にひびの入ったも古木) に、塊状で黒い、表面にひびが入って不規則に形成されたものを見かけることがある。これらは普通、厳寒、太陽光による樹皮の破損や昆虫類の浸食をおこした箇所に発生する。これは、タバコウロタケ(Hymenochaetaceae) と同属の植物学で知られるところのカバノアナタケ(*Inonotus obliquus* (Persoon) Pilat) という寄生キノコである。一般には、チャーガあるいは白樺の黒キノコと呼ばれている。主に、このキノコは白樺の古木の生きた幹に寄生するが、まれにハンノキ、ニレ、ナナカマドにも見ることができる。(ただし、チャーガを採取するのは白樺だけである。) これは他のキノコ類と同様に孢子によって繁殖する。空気中に発散され、白樺の樹皮の裂け目に付着した孢子は、白樺に多くの菌糸を拡げ樹液を栄養源としながら、発芽し始める。菌糸が木質部に達すると次第にそれを破壊し、白いハート形の腐敗物を発生させる。最初に孢子が樹皮に浸入した場所に、輪郭のはっきりしない黒いコブ状のチャーガと呼ばれるものが成長する。チャーガの成長は非常に遅い。寄生から10～15年かかって、直径50cm、厚さ10～15cm、3～5kgほどに達することができる。非常にまれに、チャーガが、厳寒による幹の裂け目に沿って1.5m以上も上下方向に拡がることもある。キノコによって次第に樹幹が破壊されると、突風などによって白樺が折れ、木は死滅してしまう。その後、キノコは扁平で小さな管状質からなる子実体を発達させる。普通これらは樹皮に覆われ、死滅した幹が樹皮を保っている間は、孢子の発散口は閉ざされている。しかし、樹皮がはげ落ちると、孢子は発散され、風によって運ばれ、キノコの成長サイクルが、新たに繰り返されていく。

チャーガは、若い木には成長しないので、白樺の古木に多く見かけることができる。立ち枯れや枯れて倒れた木では、他の（薬剤とならない）キノコ類に取って代われ、チャーガは崩壊してしまう。古い白樺の幹にチャーガのコブが崩れているものを見かけることがある。これらは厚み全体に黒色で簡単に砕けてしまう。これは、原料としては不適當であり、このようなコブからは、薬品を精製すべきではない。

原材料として良好なチャーガのコブは塊状で、切断すると三層から形成されているのがわかる。表面層は黒色、でこぼこでひびが入っている、中間層は褐色で厚みがある、断面は粒状である（ここが、幹までのチャーガの主な塊）、内部層はもろく幹の奥に拡がっている。塊の寸法は、約直径10cm。抽出物の含有量は20%以上。明るい色でもろい塊、白樺の樹皮、木質部などの不純物が混入している原料は、欠陥品である。現在、白樺に寄生している他のキノコについても研究がなされているが、チャーガに代わるものとしては認められていない。

白樺寄生のキノコ、チャーガの特徴

チャーガは、楕円または円形で、表面がでこぼことして多くの細かなヒビや結節がある。

チャーガ製品は コブの厚みのある中間層から製造される。採取されたチャーガは3～6cmに砕かれ、日除けがあり換気の良い場所、60℃以下に調整された乾燥室あるいは乾燥機で乾燥される。製造された原料は、湿気やすく、カビが発生しやすいので、乾燥した場所で保存すること（倉庫内では荷袋、薬局では箱、運送時はシリカゲル小袋入のポリエチレン製荷袋）。原料の有効保存期間は2年間。

チャーガには、水溶性色素すなわち石炭酸（フェノール）アルデヒド、重合体石炭酸（ポリマーフェノール）、酸化フェノール炭酸の誘導薬やそれらのキノン、またフミン酸類似のチャーガ酸（60%以下）、多糖類（6～8%）、リグニン、セルローズ、、化合物、有機酸類（蔞酸4.5%以下を含む）、トリマーテレピン酸（?）、遊離フェノール、ケイ素系、鉄類系、アルミニウム系、塩カルシウム系、マグネシウム系、ナトリウム系、亜鉛系の塩類と多くのカリ系塩などが含まれている。チャーガの有効な要素は、複雑な構成の染料（色素）と考えられている。同様に、白樺寄生のキノコに多くふくまれ、多くの酵素の活性化剤であるマンガンが重要な役割を与えている。

新陳代謝、神経系と身体の免疫作用によい影響を与えているのは、チャーガの他に類を見ない独特の化合物の構成によってもたらされ

た生物的刺激剤の作用である。チャーガは、内服や局部使用によって消炎効果がある。

このキノコの煎剤は、動脈と静脈の血圧を下げる。

チャーガは、分泌機能低下をともなう胃炎、胃や十二指腸潰瘍、胃や腸のポリープの治療に応用されている。

このキノコの煎剤の1対5溶解液は、血糖を下げる効果を示している。煎剤を内服して一時間半から三時間後、血清のグルコース値は、最大限に低下していることが観察されている。糖の値は15.8~29.9%に低下した。血糖値低下効果は、キノコの間層の煎剤から得られ、表面層の煎剤からは、これらの効果は得られない。

耳鼻咽喉科の医療現場では、チャーガエキスは、喉頭腫瘍用の補助的薬品として、吸入法により毎日5から6分を10日間行う方法などにより応用されている。チャーガによる治療は、患者の全体的な症状を改善し、喉頭の障害を除去、声のかすれを少なくし、呼吸を改善、合併症の炎症を柔げる。

歯科においては、チャーガ薬品は歯周症の治療（歯茎ポケットの内部に注入）に応用されている。

チャーガは、乾癬、湿疹その他の皮膚病の治療に応用せられ、特に胃腸炎、肝臓、胆汁分泌系の炎症性疾患との合併症の皮膚病治療に効果的である。

チャーガ薬品の服用時には、乳製品、植物性食品摂取を中心とした食餌療法（食肉、油脂を制限し、薫製、ソーセージ類、香辛料のが多い缶詰を禁止する）を行うことが、奨励されている。チャーガには、軽度便意促進効果がある。

治療コースは、3から5ヵ月間行われる。必要に応じ、7から10日間の休止期間をおき、治療コースを繰り返すことがある。チャーガは無害で、服用による禁忌はない。しかしチャーガの長期にわたる、休止期間なしの常用により、薬品を服用しなくなったり用量を減らした場合、時おり植物（自律）神経系統の興奮性を高める可能性がある。

商品名：チャーガ

ΦC42 №53-72

梱包：ポリエチレン袋

国家規格ГОСТ 103-54-82,ГОСТ 123-02-83

シリカゲル：

国家規格ГОСТ 3956-76, 商標 KCMГ

化学式：SiO₂ + NH₂O

梱包された

商品の正味重量：

5 0 kg

商品の分析値：

	技術基準値	分析結果
1. 外観、いろ、臭い、味		適合
2. 色素複合体	10%以上	12.87%
3. 水分量	14%以下	12.95%
4. 一般ゾル	14%以下	8.63%
5. 直径7mm以上のかげら	4%以下	3.42%
6. 直径2mm以下のかげら	18%以下	16.87%
7. 放射性核種含有量 セシウム134、137	200Bq/ℓ以下	16.85±9
8. 放射性核種含有量 ストロンチウム90	100Bq/ℓ以下	1.57±10
9. 微生物学的な清潔さ		適合
10. 昆虫、ネズミ等の混入		なし